

大分市歴史資料館年報

(平成20年度)



2009

は じ め に

第27回特別展「馬とのつきあいーおおいた馬物語」を10月24日から11月24日の29日間開催しました。期間中の11月9日には、講座室にて豊田寛三氏（大分大学教育福祉科学部教授）・田中裕介氏（大分県教育庁文化課主幹）・三重野誠氏（別府市立別府商業高等学校教諭）をお招きし、古代・中世・近世の馬をめぐる座談会を行いました。その後、会場参加者と自由な議論をしていただきました。

テーマ展示につきましては、第1回「江戸の技術と科学」・第2回「豊後大友氏と南蛮文化」・第3回「この遺跡、この一品」・第4回「庄屋のお仕事ー江戸時代の村の生活」を開催し、総開館日数234日に計12,830人にご観覧いただきました。

教育普及事業では、ふるさとの歴史再発見として、歴史（9回）、考古（9回）、民俗・文化史（6回）、古文書（8回・うち2回は初心者のための基礎講座として特別補講を実施）のコースを開講し、受講生から好評を得ました。受講者総数は2,132人でした。

ふれあい歴史体験講座では、親子を中心に多くの方が管玉・丸玉・勾玉・埴輪作り・土笛作り・縄文かご編み・和風作り・縄文土器作り・土器野焼き・土面作りなどの体験をし、むかしの生活・歴史について体感していただきました。

また、学校・団体の体験活動も学校訪問などの周知活動の結果、年々増加してきました。中学校においても職場体験活動「キャリア・スタート・ウィーク」で資料館の利用があり、多くの生徒が職場体験をとおして郷土の歴史を学んだと思います。

5月5日の子どもの日には「昔のおもちゃで遊ぼう!」を史跡公園で行ない、269人の親子が遊びました。7月7日の「七夕かざりを作ろう!」では148人の親子が参加し、色とりどりの七夕かざりが出来ました。「勾玉作り教室」は7月23・24日、11月2・16・23日の計5日間で、総人数1,713人の人たちに楽しんでいただきました。

夏休み期間中は、夏休みジュニア歴史講座と「子ども1日学芸員」を実施し、また、小・中学校の先生方に資料館体験活動指導者講習会を開きました。

教育普及の場として、より多くの方に気軽にご利用いただくとともに、市民の皆さんに親しまれ、地元根付いた資料館であるためにも、利用者の皆さまの声を反映させながら、よりよい資料館活動をめざしてさまざまな事業を実施しているところです。これらの事業をとおし、大分の歴史遺産を生かし、市民とともに創る歴史資料館を目標に掲げて、市民が身近に感じられる歴史資料館として一層の充実をはかっていきたいと思っています。

今後とも、広く各方面の皆様方、ご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。

平成21年6月30日

大分市歴史資料館

館長 讃岐 和夫

目次

展 示	1
テーマ展示 特別展	
資料調査	8
資料収集	9
教育普及活動	13
平成20年度 大分市歴史資料館研修報告	18
大分市立滝尾中学校教諭 瀧口 佳代	
地域情報（自分史）	20
図 書	20
歴史資料館利用状況	21
管理及び運営	22
歴史資料館協議会 組織機構・分掌事務・職員・歳入歳出 施設管理業務の内容	
施設の概要	23
利用案内	24

展 示

(1)テーマ展示

第1回 「江戸の技術と科学」

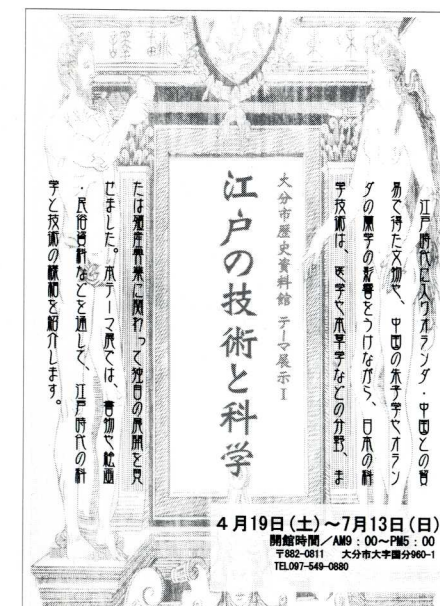
会期 4月19日(土)～7月13日(日)

開館日数：73日 入館者数：4,072人

16世紀半ば、日本に來日したポルトガル人やイエズス会の宣教師らによって鉄砲をはじめとする西洋の進んだ科学技術がわが国にもたらされた。この頃ヨーロッパで盛んに用いられたオルテリウスなどの地図も伝えられ、日本人に新しい世界観を与えた。江戸時代に入り、幕府が行ったキリスト教の禁止令と鎖国政策によって諸外国との交易は断たれ、長崎を窓口にオランダ・中国とのみ貿易が行われることになった。以後、この貿易で得た文物、中国の朱子学やオランダ語を介した蘭学の影響を受けながら、日本の科学技術は、医学や本草学などの分野、殖産興業に関わって独自の展開をみせていった。本展示では、書物や絵画・資料などを通して、江戸時代の人々の技術や科学の様相を紹介した。

主な展示品

『解体新書』／『蘭語譯撰』／賀来飛霞の植物写生図／西洋式大砲「カラナード砲」の図／発火器付根付／嘉永井路絵図／『日本山海名物図会』（宝暦4年・1754 初版）



本草学から近代的博物学へ



西洋軍事技術の導入・からくり

第2回 「豊後大友氏と南蛮文化」(特集展示)

会期 7月19日(土)～10月19日(日)

開館日数：76日 入館者数：4,501人

種子島に鉄砲が伝来した2年後の1545年(天文14)、当時「沖の浜」とよばれた豊後府内の港にポルトガル人を乗せた中国船が入港した。これが府内と西洋との交流の始まりといわれている。以来、府内にはポルトガル商人が滞在するようになり、ポルトガル船も入港するようになった。1551年(天文20)大友宗麟が山口で布教を行っていたフランシスコ・ザビエルを府内に招いたことをきっかけに、1553年(天文22)教会が建てられ、ポルトガル政府と正式に交易も行われるようになった。キリスト教をはじめとする西洋文化や陶磁器などの海外の珍しい品々が数多く持ち込まれ、いわゆる南蛮文化が府内に華開いていった。本展示では、こうした大友氏とポルトガルとの交流の歴史と、南蛮文化で彩られた当時の豊後府内の様子を紹介した。

主な展示品 ティセラ 日本図(1595年)／華南三彩刻花牡丹唐草文六耳壺／『ローマ教皇グレゴリオ13世伝』(1596年)／花樹鳥蒔絵螺鈿書箆筒／チェンバロ[復元](16～18世紀)



豊後と南蛮との出会い



府内教会の創建



大友氏の南蛮貿易



大友氏の南蛮貿易

第3回 「この遺跡、この一品」

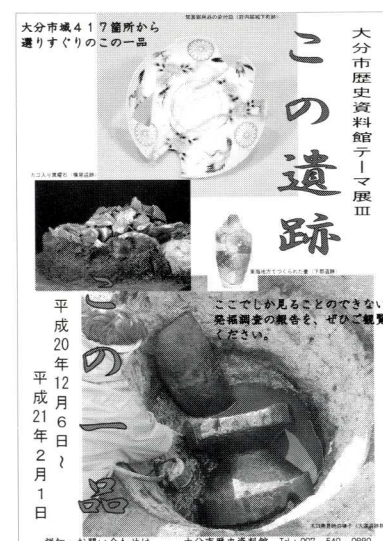
会期 12月6日(土)～2月1日(日)

開館日数：42日 入館者数：1,835人

大分市域は、古代に豊後国府をはじめ大分・海部2郡の郡衙もおかれるなど、古くから豊後の中心地として発展してきた。このため、多くの遺跡が知られており、平成20年現在、417箇所にもものぼっている。こうした遺跡の発掘調査では多くの貴重な遺物が発見されている。今回はこれらのうちで、歴史の証として特筆すべき一品を選んで展示した。

主な展示品

- 〔旧石器・縄文時代〕横尾遺跡カゴ入り黒曜石
- 〔弥生時代〕玉沢地区条理跡 竪杵
- 〔古墳時代〕東田室遺跡 線刻画(竜?)土器
- 〔古代〕下郡遺跡 東海産須恵器壺
- 〔中世〕猪野中原遺跡 地鎮土師器
- 〔近世〕府内城城下町跡「禁裏御用品」染付皿
- 〔近代〕大道遺跡群 汽車土瓶



テーマ展入口



旧石器時代～中世



中世～近代

第4回 「庄屋のお仕事—江戸時代の村の生活」

会期 2月7日(土)～3月29日(日)

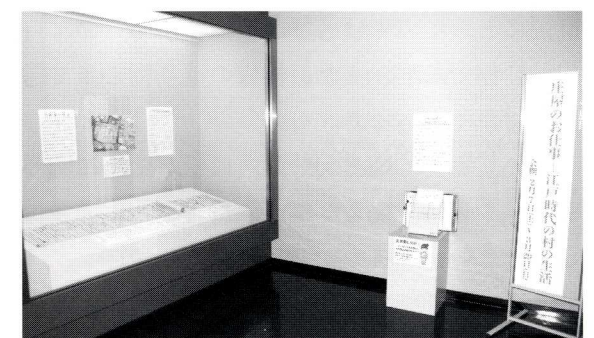
開館日数：43日 入館者数：2,422人

江戸時代の庄屋さんには厳しく年貢を取り立てて農民を苦しめる人と、反対に農民の生活を守るために尽くす人の二つのイメージがある。この二つのイメージは、藩の村支配を担当した郡代・代官などの役人と、村内の農民たちをつなぐ庄屋という仕事に深く関わっているとみられる。本テーマ展示では、代々臼杵藩領大分郡戸次の「利光村」の庄屋(大庄屋)であった高橋家に伝わる古文書をもとに、庄屋の仕事と村の生活について紹介した。

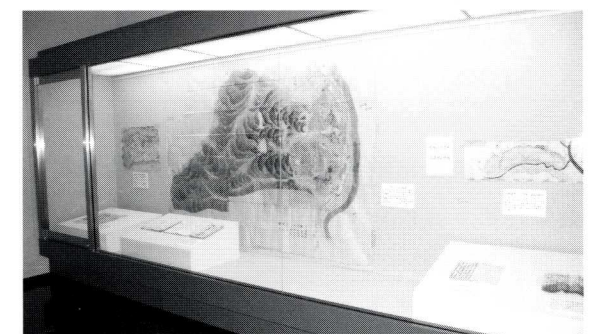
主な展示品

高橋左近あて山口宗永書状／春御免相申上御事(元文4年・1739)／利光村田方名寄帳(正保4年・1647)／山野の刈敷場をめぐる上尾・影木・大塔村の争論の記録と絵図／在中御制度書／『農業全書』

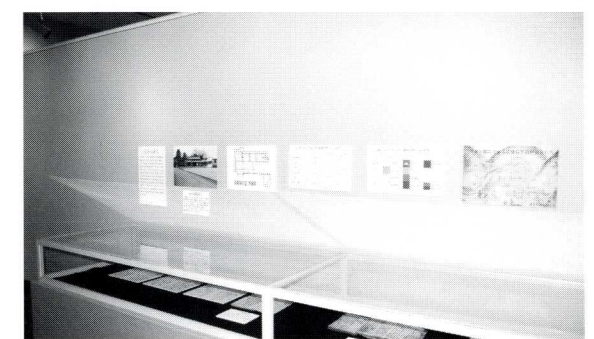
テーマ展示入館者総数 12,830人



戸次利光村の庄屋高橋家



庄屋のお仕事



庄屋の格式

資料収集

資料収集委員会

1. 委員名簿

氏名	役職	分野
豊田寛三	大分大学教育福祉科学部教授	日本史
菊竹淳一	九州産業大学芸術学部教授 九州大学名誉教授	日本美術史
段上達雄	別府大学文学部教授	日本民俗学
鳥井裕美子	大分大学教育福祉科学部教授	日欧交渉史 比較文化論
下村智	別府大学文学部教授	日本考古学

2. 会議

日時 平成21年3月23日(月) 9:30~11:30

場所 大分市歴史資料館 会議室

議題 (1)委嘱状の交付

(2)会長・副会長の選出

* 互選にて会長に豊田氏を、副会長に
段上氏を選出

(3)購入資料の審議

寄贈

(1)軍隊用バック 1点

渡辺豊、同ノブ子氏

(2)大日本国防婦人会旗(旗竿・同台付) 1点

阿倍孝一氏

(3)ミッドウェイ海戦の写真(写し) 1点・海軍

履歴表2点・修業記念アルバム 1点・写真図

説帝国連合艦隊 1冊・秘蔵写真で知る連合艦

隊決死の激闘 1冊 幸成秋氏

(4)「世界十大戦争」 1冊

栗原祥子氏

(5)憲兵制服上着 3点・憲兵制服ズボン 1点・憲

兵制服外套 1点・腕章 1点・ゲートル 1セット

西山康夫氏

(6)常用日記(昭和18年) 1冊、操縦手簿 1冊、

東亜日記 1冊

菊川恵美子氏

(7)昭和10~27年新聞48枚

吉良山フサエ氏

購入

1. 大友義統書状

1幅

【古後玄蕃允宛／(天正11年)10月16日付】

本紙：縦13×横49cm

天正11年(1583)10月16日に大友氏は玖珠郡衆を派遣し、島津氏に通じた野仲鎮兼(重兼)の軍勢が守る砦「是則切寄」(現在の中津市是則)を打ち崩した。その際に疵を負いながら敵の首を取るなど奮戦した古後玄蕃允に対して大友義統が出した感状。「大友家文書録3」(『大分県史料(33)』)に「(天正十一年十月)十六日、義統、在豊前、攻是則砦、陥之、古後玄蕃允負創、獲首級」とあり、この内容を裏付ける史料である。

2. 田原親賢書状及坪付

2通

【市丸弾正忠宛／永禄4年9月20日付】

書状本紙 縦20.5×横50cm

坪付本紙 縦26.5×横77.8cm

大友宗麟の義弟で、当時、妙見岳城督・豊前方分の職にあった田原親賢(紹忍)が、親子二代にわたる軍労を謝し、宇佐郡内の高家郷2町と常德1町を宇佐郡の市丸弾正忠に預け遣わした書状。その土地の明細を書きあげた永禄4年(1561)9月20日付けの「坪付」状もセットとしてある。この年、豊前門司城をめぐる大友氏は毛利氏と争っており、親賢書状はこの合戦に参陣した市丸弾正忠の軍労を賞して出されたとみられる。また、「坪付」状は、親賢の書状をうけて清成山城守資房・竹田津美作守栄之・岡部宮内少輔房清・有永河内守資辰・糸永但馬守幸輔の連署で出されており、当該期の親賢の主要な家臣層が分かる内容でもある。

3. 田原紹忍(親賢)書状

1通

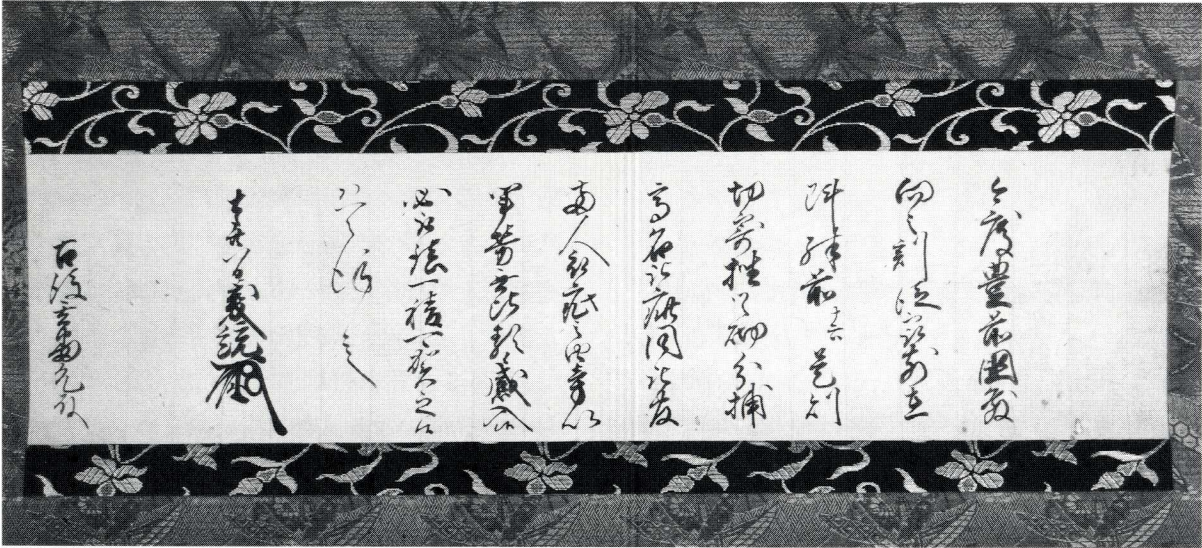
【市丸弟宛／(天正7年)3月18日付】

本紙：縦27.4×横43.3cm

天正6年(1578)11月に大友氏と島津氏との間で戦われた日向高城・耳川の合戦で戦死した市丸右京亮の跡目を息子の市丸弟に譲りの旨に

任せて領掌することを田原紹忍（親賢）が認めた書状。紹忍は、高城・耳川の合戦で大友軍の総指揮をとったが、大敗し、戦死をうわさされたものの1ヶ月後に無事生還した。本書状は、紹忍が生還した天正7年3月18日に出されたもので、切封の跡や包紙が残るなど、文書の原形をよくとどめている。なお、本文書は、『増補訂正編年大友史料24』に200号文書として載せられており、ここに記されている包紙の存在や「切封ノ跡を存ス」とある説明書の内容とも一致する。

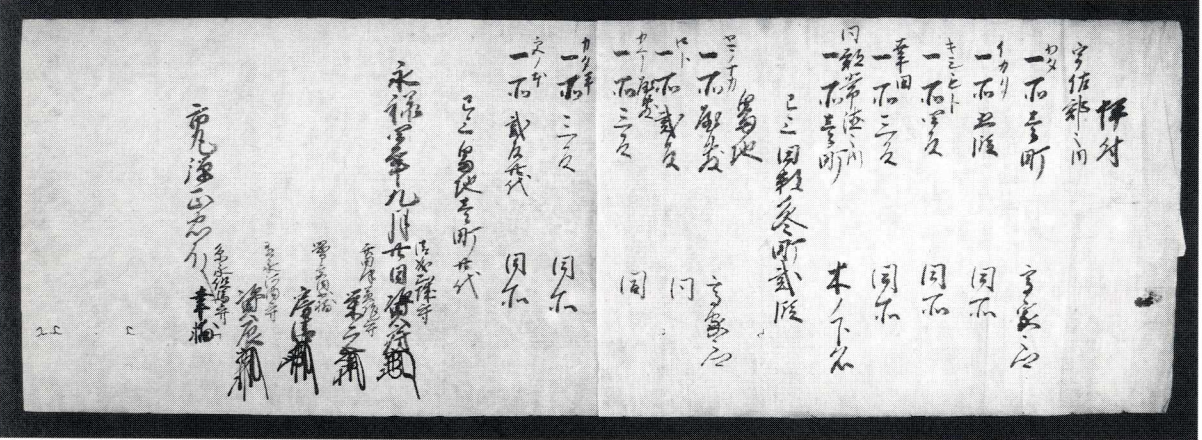
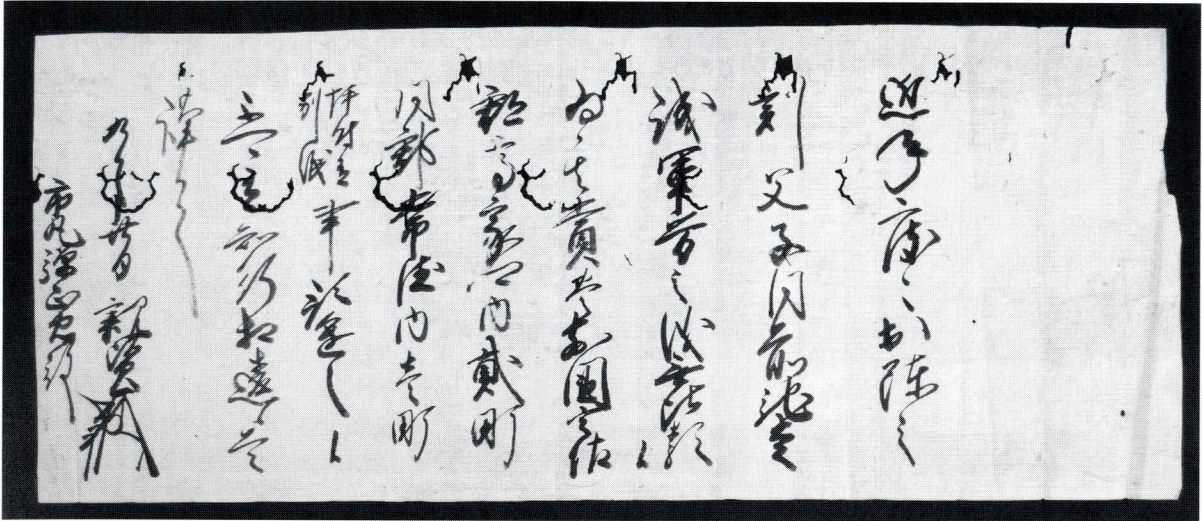
4. 豊後府内藩船之図 1枚
本紙：縦18×横16.7cm
豊後府内藩の御座船を描いた木版彩色画。図中に「豊後府内藩二万二千二百石 松平左衛門尉



今度、豊前国発
向之刻、従最前在
陣、殊前十六是則
切寄挫候砌、分捕
高名被疵、同被官
兩人被疵之由、旁以
軍勞無比類候、感入候
必取鎮一積可賀之候、
恐々謹言
十月廿八日 義統（花押）
古後玄蕃允殿

1. 大友義統書状（1幅）

様」とあり、松平左衛門尉こと、松平近説が藩主として在任していた天保12年（1841）～明治4年（1871）の間の出版物とみられる。帆には白地に紺色で松平家の家紋である「丸に釘抜」が、船の側面に飾れた幕には白地に赤色で同じく「丸に釘抜」紋が施されている。なお、天保8年（1837）「御参府日記」（府内藩記録）によると、府内藩の藩主が乗船する御座船は、万喜丸と呼ばれ、藩主以下42名の家臣が乗船している。



評付
宇佐郡之内
わ夕
一所老町
イカリ
一所五段
キシモト
一所四反
幸田
一所三反
同郡常徳之内
一所老町
已上田数参町式段
島地
ヤマノナカ
一所屋敷
江ノ
一所式反
カケ屋敷
一所三反
カタ平
一所三反
宮ノ本
一所式反廿代
已上島地老町廿代
清成山城守
竹田津美作守
永禄四年九月廿日 資房（花押）
米之（花押）
岡部宮内少輔
房清（花押）
有永河内守
資辰（花押）
糸永但馬守
幸輔
市丸彈正忠殿

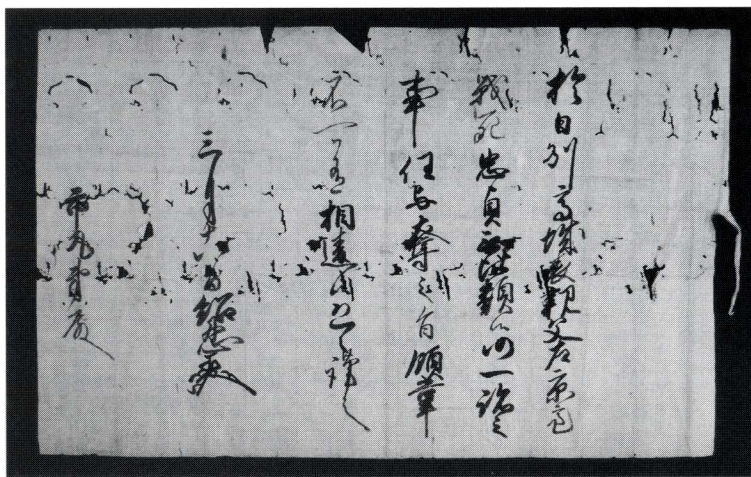
評付
宇佐郡之内
わ夕
一所老町
イカリ
一所五段
キシモト
一所四反
幸田
一所三反
同郡常徳之内
一所老町
已上田数参町式段
島地
ヤマノナカ
一所屋敷
江ノ
一所式反
カケ屋敷
一所三反
カタ平
一所三反
宮ノ本
一所式反廿代
已上島地老町廿代
清成山城守
竹田津美作守
永禄四年九月廿日 資房（花押）
米之（花押）
岡部宮内少輔
房清（花押）
有永河内守
資辰（花押）
糸永但馬守
幸輔
市丸彈正忠殿

2. 田原親賢書状及坪付（2通）



(包紙)

市丸弟殿 紹忍



於日州高城表、親父左京亮
戰死、忠貞無比類候、依一跡之
事、任与奪之旨、領掌
不可有相違候、恐々謹言

三月十八日 紹忍(花押)

市丸弟殿

3. 田原紹忍(親賢)書状 (1通)



4. 豊後府内藩船之図 (1枚)

1. 研究主題

日常の授業実践で使える地域教材の開発

2. 主題設定の理由

人格の形成と社会的自立は教育の目的である。近代社会の中に生きる自己を育成し、人間としての成長を目指すことでもある。よりよい社会の形成や自らの幸福の追求のために、思考力・判断力をそなえた自立した主権者の育成が必要である。しかし最近、モラルの低下や社会の一員としての自覚の低さなど、「公」の喪失が顕著に表面化している。自分にとってのみ絶対の自己が確立され、批判や反論を受け付けられない不安定な個人の多い社会となってきた。

20年以上現場で生徒達に接してきて、自ら主体的に学ぼうとしない生徒が次第に増えてきたと思う。学ぶことは自己を変革することであるが、そのことに精神的な必然性を見出していない。社会あつての個人、社会の一員としての個人ではなく、別々の個人が集まって社会を作ると考えているのではないか。

しかし、人間は本能の動物ではなく「学ぶ」ことで社会化される。自ら進んで学ぶ主体となり、思考したり他者を受け入れたりすることによって、自己の再構築が図られ大人になっていくのである。その1つの手段がいわゆる「勉強」である。となれば、社会認識と公民的資質を養うことを目標とする社会科の役割は大きい。

現実の生徒達を能動的に学習に取り組ませていくためには、具体的に把握しやすいものから理解を深めさせていくことが必要ではないかと思う。地域に独自の文化や生活があったことを実感し、身近に感じていくことができれば、歴史に関心を持つのではなかろうか。そのために、地域の歴史から具体的に思考させる機会や場面を設定したいと考える。

社会認識を科学的なものに高めるには、学習資料は重要である。生徒にわかりやすく、イメージを持たせやすく、思考する手がかりになる資料であれば、授業は活性化する。中央史と関わる地域教材を使えば、生徒も興味を持って授業

に取り組む、自分のこととして受け入れ、考えるのではないかと思われる。具体的な姿で理解できれば、生徒の「わかった」度合いが深まり、主体的・積極的な授業が展開され、それが楽しい授業になっていくのではないか。

しかし、地域の歴史や史料はそのままでは資料とはならない。中学校の歴史教育や現場の生徒の実態にふさわしく、教材化していく必要がある。そこで、自分の授業を見直し、単元構成を考え、先行事例を参考にし、歴史資料館だから出来ることも鑑みながら、日ごろの授業で使える中央と関わる地域教材の発掘・作成をして、指導できるようにしていきたい。今までおろそかにしていた地域の文化財や郷土史の学習を深めて、自分の知的好奇心を満たすとともに、その成果を授業で生徒に還元していきたい。以上のような理由から、上記のような研究主題を設定した。

3. 研究内容

- (1) 歴史の地域教材の開発と具体的な資料化のための研究
- (2) 資料館と中学校との連携を図る研究
- (3) 自分の専門を深めるための研究
- (4) 研究のまとめ

4. 研究の成果と課題

- (1) 歴史の地域教材の開発と具体的な資料化のための研究

授業の中で地域のことを取り上げるだけでも生徒たちは興味を示す。自分の住んでいるところでも人々は長い間生活し、中央の政治や文化と関わっていることや時には動かしていたことなど知ること、歴史に興味を持ち、郷土に愛着を感じる。歴史は他人事ではなく、自分とつながっていることに気付くことができる。そこで、まずは私自身が「学ぶ（知る）」ことが大切だと思った。そして、学んだことの中から興味を持ったことを追究して「学びを深める」。それらを教材化していき、「学びを生かす」場面として、検証のために研究授業を行いたいと考えた。

そこで、「学ぶ」として、各種書籍・文献から大きく地域の歴史をとらえ、教材となりそうな出来事や人物をまとめていった。

「学びを深める」としては、「学ぶ」中に出てきた興味や疑問を、特に系統立てず納得がいくまで追究した。

「学びを生かす」として「大友府内町の発掘の成果と大友宗麟」「横尾遺跡」で学んだ知識や事柄を使って、滝尾中学校3年生選択社会のクラスで2回授業を行った。

- (2) 資料館と中学校との連携を図る研究

大きく2つのことを行った。1つは、資料館の体験学習（勾玉作りや昔の暮らし体験など）の支援（手伝い）である。中学生の職場体験学習についても支援（手伝い）をさせてもらった。全部で15校の受け入れを行った。資料館は普段の業務を行いながら、それに合わせてもしくは別メニューで、生徒たちの仕事を考えて計画を立て、実際に指示していった。職員の協力なしにはできないことである。

こうした体験活動では、「外から見える学校」に気付かされる。また、それぞれの学校や教師の指導方法なども外の視点から見るのが出来、勉強させてもらった。

もう1つは資料館を使つての授業である。資料館の人・もの・情報を中学校の授業で利用できるかどうか試してみた。資料館にある遺物（横尾遺跡発掘の土器2点・土器破片7点・どんぐり適宜・黒曜石の鏃1点）を教室に持ち込み、生徒に触れさせる活動を取り入れた。同時に資料館の甲斐指導主事とチームティーチング（T. T.）の授業を行ってみた。遺物などの実物や専門家の話には威力があった。生徒にとっては面白いだけでなくかなり有意義な体験だったようである。



- (3) 自分の専門を深めるための研究

①「ふるさと歴史再発見」の聴講

資料館で土曜日に開催される講座（歴史・考古・民俗文化史・古文書）に参加して、

多くの講師の話を聞くことができた。話の中で授業に使えると思ったものも多かった。準備から講座まで、講師の専門性とプロとしての情熱を感じた。

②資料館外の講座への参加

歴史資料館の特別展の座談会やテーマ展の解説講座はもちろん、資料館外が主催する講座にも積極的に参加した。授業に使えるものも多くあり、とても参考になった。

③文化財、遺跡、他の博物館などの見学や学習

大分市内をはじめ他県の文化財・遺跡・博物館などの見学に行った。指導主事などいろいろな方に説明を受けながら見学した。やはり、話を聞くことで認識は高まり、自分の疑問もすぐに解消できよくわかった。

④専門書の読書

県史や市史などはもちろん報告書や専門の雑誌など読んでいってもわかるようになったことは成果である。ゆっくり本を読めたこの1年間は、自分の学習意欲も喚起させてもらえてとても有意義であった。

5. 今後の課題

この1年間で学んでいったことをどのように現場で生徒たちに返していくかが最も大きな課題であろう。以前よりも地域の歴史を授業に取り入れることができるのではないかと思う。あまり大上段に構えず、できることからやるくらいの気持ちで取り組んでいきたい。

資料館自体も、遺物の貸し出しなど授業で利用してみたい。また、地域に遺跡や古墳があれば、その説明などもしてもらえる機会を作っていきたいと思う。

自分としては、大友府内町や横尾遺跡についてはこれからも発掘や研究の成果を学んでいきたい。今回あまり成果の上がらなかった南北朝時代についても、できるだけ調べていきたい。縄文の食についての実験は、今後も続けていければと思う。なにはともあれ、今回自分の中で目覚めた勉強したい、学びたい、知りたいという意欲を、忙しさの中でさびさせないようにしながら、持ち続けていこうと思う。

地域情報

自分史コーナー

パソコンやインターネットの普及により誰でも簡単に「自分史」をまとめることが可能になった。「自分史」とは個人の歴史であるとともに、地域社会の歴史の証言でもある。平成20年度から公募により、「自分史・家族史コーナー」（不定期）の開設を行った。今回は渡辺千栄子さん・神屋クニエさんの2人のご紹介を行った。

第1回 渡辺千栄子さん（大正14年生れ）

期 間 6月26日～8月3日

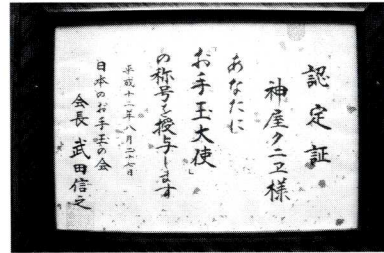
市内の小学校教員を歴任され、退職後は謡曲の集い「千謡会」を主催されるなど精力的に活動されている。その足跡の一部を紹介し、教職員（小学校）生活の間に子供たちとの思い出の品々や文集などとともに、当時の文集作成に必要なガリ版や謄写版なども展示した。



第2回 神屋クニエさん(明治41年生れ)

期 間 3月28日(土)～5月10日(日)

長年にわたり幼稚園や小学校にお手玉を寄贈され、日本お手玉の会から「お手玉親善大使」として認定されています。100歳になられる現在までに、約11万個のお手玉を作り続けてこられ、そのお手玉作りの様子や実際につくられたお手玉、さらに戦前から戦後にかけての国分地区の様子がよくわかる自分史「凌ぐ」を展示した。



図書

購入図書 95冊

勾玉	水野祐
古墳時代の研究10 地域の古墳	雄山閣
縄文文化の研究7 道具と技術	雄山閣
弥生文化の研究4 弥生土器Ⅱ	雄山閣
人と動物の日本史1 動物の考古学	吉川弘文館
月刊文化財 No.535～546	文化庁文化財部
季刊考古学 第103～106号	雄山閣
季刊考古学 別冊15・16	雄山閣
ビジュアル 戦国1000人	世界文化社
東洋文庫 貞丈雑記1～4	平凡社
史学雑誌 第117編第3～12号	史学会
史学雑誌 第118編第1～2号	史学会
日本歴史 第720～730号	日本歴史学会
日本史研究 第548～559号	日本史研究会

寄贈図書 738冊

日本の美術 No.503～514	文化庁他
MUSEUM No.613～618	東京国立博物館
現代考古学事典	同成社
江戸時代語辞典	角川学芸出版
対外関係史辞典	吉川弘文館
図説江戸大道芸事典	柏書房
年中行事大辞典	吉川弘文館
[絵引] 民具の事典	河出書房新社
服装と儀式の有職故実	佐多芳彦
写真記録 日本生活史	日本図書センター
ふるさと子供 遊びの学校	原賀隆一
ふるさと子供 ウィズダム	原賀隆一
ふるさと子供 グラフティ	原賀隆一
ものと人間の文化史100 瓦	森郁夫

歴史資料館利用状況

月別観覧者数

単位：人

年 ／ 月	観覧者数						講座室利用者数						総 合 計
	一 般			団 体			一 般			資料館講座			合 計
	大 人	高校生	中学生	小学生	大 人	高校生	大 人	小中高生	歴史講座 解説講座	実技講座	ジュニア・ 移動講座 ほか	大 人	小中高生
20/4	318	4	14	110	166	360	0	134	0	265	196	288	51
5	314	3	16	78	977	0	0	817	0	205	607	258	13
6	206	0	6	82	341	0	35	200	0	220	349	263	5
7	316	0	17	130	507	31	95	397	0	243	745	251	75
8	408	5	31	160	451	0	16	545	0	171	900	186	6
9	326	2	7	59	94	24	22	639	0	210	779	251	11
10	317	0	6	75	481	0	43	2,293	0	15	2,241	17	37
11	589	5	5	147	420	0	8	3,921	8	191	1,831	220	28
12	217	4	2	76	92	0	8	242	0	172	300	177	21
21/1	204	0	1	86	235	0	4	857	0	209	1,010	233	204
2	289	6	2	72	245	0	2	439	0	254	597	261	71
3	364	12	15	120	294	0	1	934	3	123	1,151	166	46
合 計	3,868	41	122	1,195	4,303	415	234	11,418	11	2,278	10,706	2,571	568
								21,596			5,961		22,489

利 用 案 内

開館時間 9時～17時

(入館は16時30分まで)

休 館 日 毎週月曜日(祝日の場合は開館)

ただし、毎月第1月曜日は開館し、
翌火曜日が休館(祝日の場合は開館)
祝日の翌日(土・日曜日の場合は開館)
年末年始(12月28日～1月4日)

観 覧 料 大 人200円(団体150円)

高校生100円(団体 50円)

中学生以下は無料

* 団体は20名以上

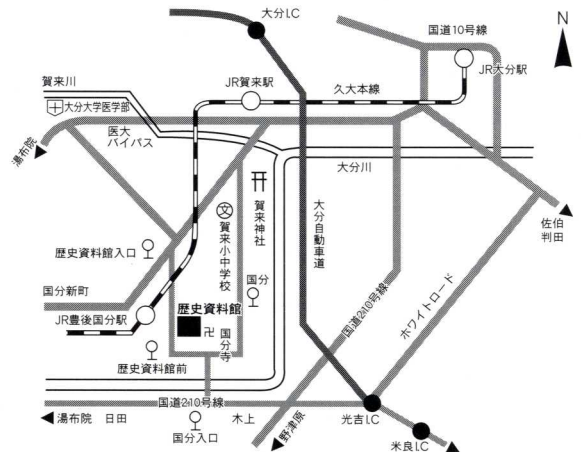
* 特別展開催中は別料金となる場合があります。

交通機関 【JR久大本線】

○豊後国分駅下車：徒歩2分

【大分バス】

○歴史資料館入口下車：徒歩5分



大分市歴史資料館年報

2009

発行日 平成21年6月30日

編集・発行 大分市歴史資料館

〒870-0864 大分市大字国分960番地の1

TEL(097)549-0880 FAX(097)549-5766